

# さいたま市防災カルテ

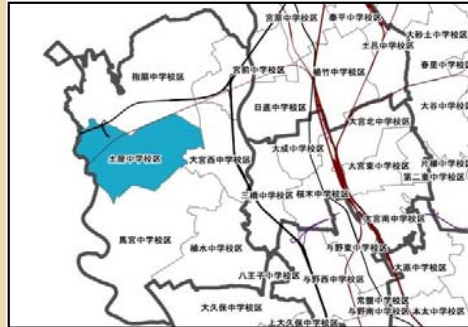
## 土屋中学校区

### ①学区の概況と課題

#### ◆学区の概要

【位置】西区の中央に位置している。  
 【土地利用】学区の北西部は住宅と畑の混在した地域、東部は住宅地が広がっている。  
 【交通】学区の北西部にはJR川越線が走っている。

#### ◆学区の位置



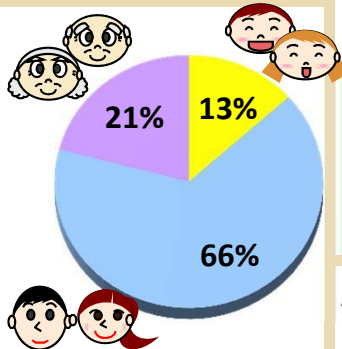
#### ◆学区内被害想定結果

地震	さいたま市直下地震	関東平野北西縁断層帯地震	東京湾北部地震			
最大震度	6強 (6.2)	6強 (6.2)	6弱 (5.7)			
最小震度	6強 (6.0)	6弱 (5.9)	5強 (5.3)			
死者	23人 (0.1%)	23人 (0.1%)	1人 (0.0%)			
負傷者	172人 (0.9%)	171人 (0.9%)	27人 (0.1%)			
避難者	4,288人 (23.1%)	4,170人 (22.5%)	196人 (1.1%)			
全壊建物棟数	1,295棟 (21.6%)	1,277棟 (21.3%)	19棟 (0.3%)			
うち焼失棟数	845棟 (14.1%)	815棟 (13.6%)	0棟 (0.0%)			
半壊建物棟数	1,206棟 (20.2%)	1,198棟 (20.0%)	407棟 (6.8%)			
水害	荒川	利根川	江戸川	芝川等	綾瀬川等	鴨川等
床上浸水建物棟数	3,934棟	0棟	0棟	0棟	0棟	0棟
床下浸水建物棟数	1,281棟	0棟	0棟	0棟	0棟	0棟

※震度のカッコ内は計測震度を、それ以外のカッコ内は学区内の比率を示す。

#### ◆人口概況 (平成22年国勢調査)

	土屋中学校区	全市平均
総人口	18,526人	
0-14歳	2,468人 (13%)	(14%)
15-64歳	12,186人 (66%)	(67%)
65歳以上	3,872人 (21%)	(19%)
人口密度	4,197人/km <sup>2</sup>	5,766人/km <sup>2</sup>

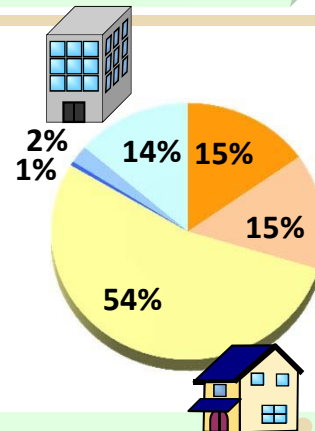


- 【地震】さいたま市直下地震、関東平野北西縁断層帯地震のどちらの場合でも、**地区の約40%が全壊・半壊の被害**を受け、**地区の10%強にあたる建物は焼失**する恐れがある。
- 【水害】荒川が氾濫した場合、**地区の85%以上が浸水被害**を受ける。

人口割合は全市平均とほぼ等しい一方、**人口密度は低い**。

#### ◆建物概況 (平成23年度さいたま市都市計画基礎調査)

	土屋中学校区	全市平均
総建物棟数	5,985棟	
木造(昭和46年以前)	905棟 (15%)	(17%)
木造(昭和47-55年)	875棟 (15%)	(12%)
木造(昭和56年以後)	3,225棟 (54%)	(45%)
非木造(昭和46年以前)	31棟 (1%)	(1%)
非木造(昭和47-55年)	133棟 (2%)	(3%)
非木造(昭和56年以後)	816棟 (14%)	(21%)



全市平均と比較すると、**新しい木造建物の割合が大きい**。

#### ◆防災関連施設情報 (平成26年2月時点)

種別	名称
避難場所	土屋中学校、県立大宮武蔵野高等学校、馬宮東小学校
一時・広域避難場所	
市・区役所等窓口	
消防署・出張所	
警察署・交番	
救急病院	
応急給水場所	土屋中学校

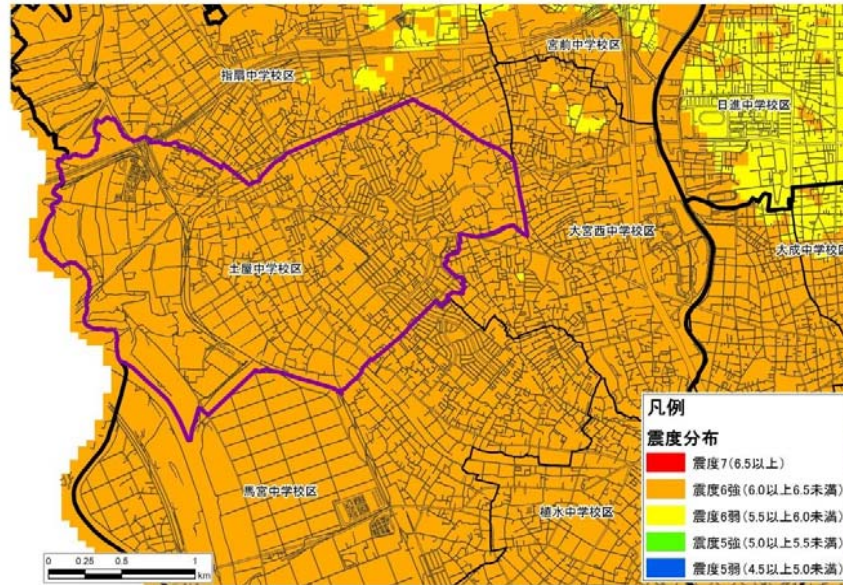
#### ◆被害想定結果からわかる防災上の主なポイント

- 【耐震化】多くの建物被害が想定されているため、**耐震化率の向上が必要**。
- 【水害】水害の危険性が高い地区となっており、迅速な情報伝達体制や、自主防災組織等による**安全な避難体制の構築が必要**。

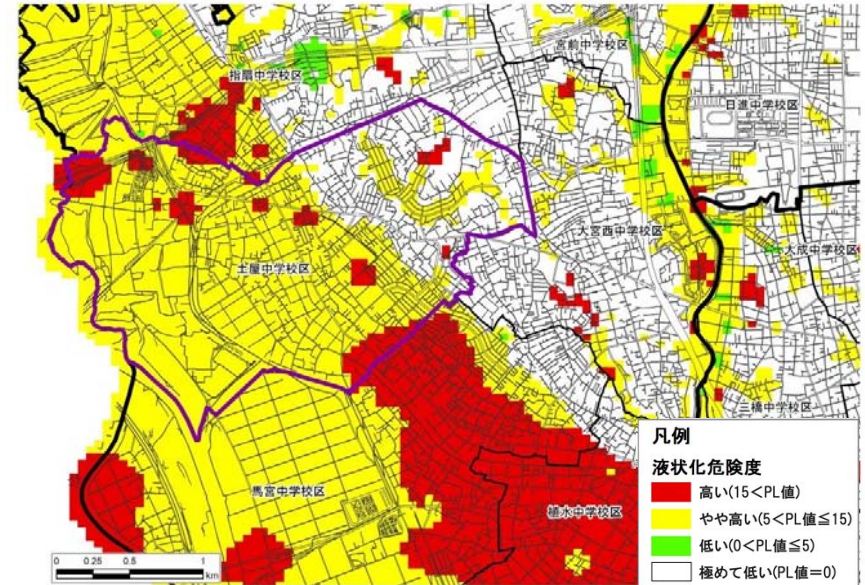
# ②さいたま市直下地震の想定 **さいたま市防災カルテ**

## 土屋中学校区

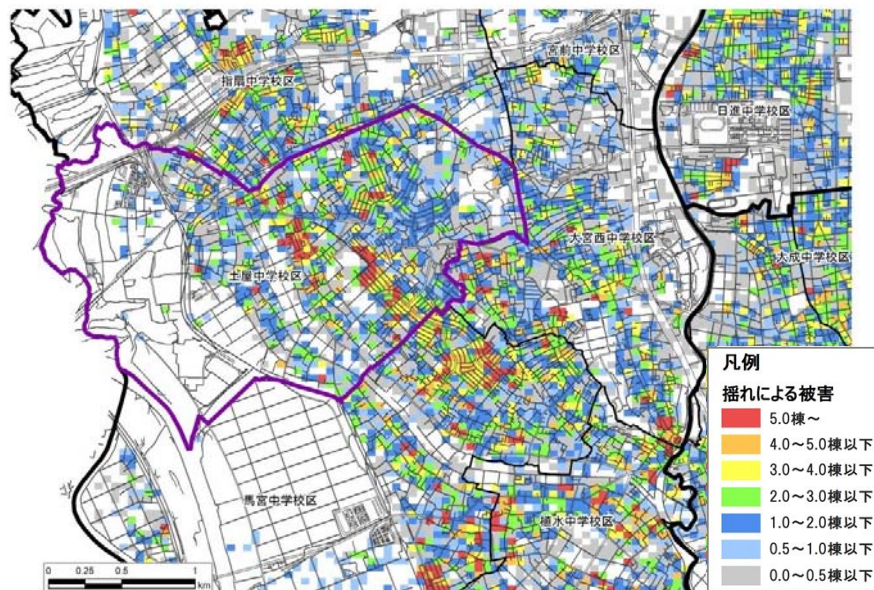
震度分布図



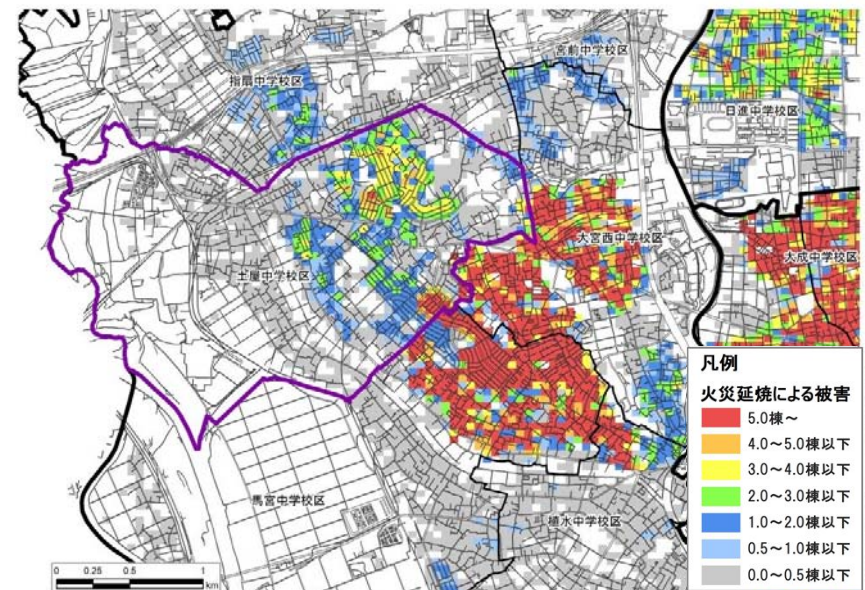
液状化危険度分布図



建物被害分布図（揺れによる被害）



建物被害分布図（火災延焼による被害）

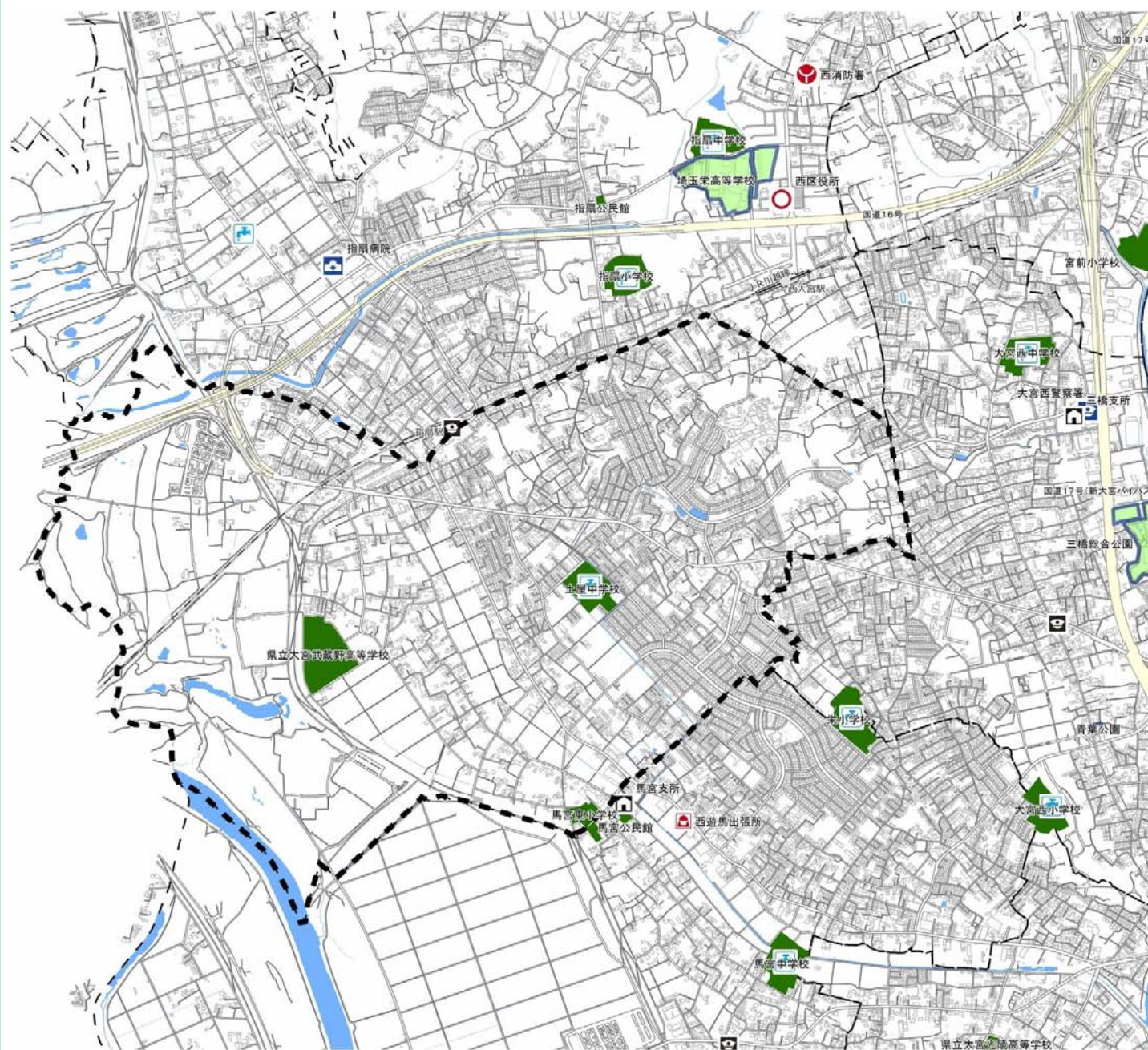


本カルテは一つの例であり、これを基に防災上のポイントや必要な対策について、家族や地域の方々と話してみましょう。

### ③防災マップ

# さいたま市防災カルテ

## 土屋中学校区



**凡例**

避難場所	消防署
一時避難場所	消防署(出張所)
広域避難場所	警察署
市役所	交番・駐在所
区役所	救急病院
支所・市民の窓口	応急給水場所

(平成26年2月時点の情報で作成)

メモ欄

